

NPO 法人気候危機対策ネットワーク

第 5 回通常総会・記念講演会 2025 年 10 月 25 日（土）16 時エコストアパパラギ 2 階ホール

初めに

2020 年の設立からあつという間の 5 年、皆様からのご支援の賜物です。
振り返ってみても正に疾風怒濤の 5 年間でした。



誰でも環境活動家！
NPO 法人
気候危機対策ネットワーク

（気候）

何より気候変動のあらゆる分野への影響は激烈で、自分自身の海での長年の経験で目撃してきたことに加え、NPO の環境活動家をはじめとする会員の皆さんとのフィールド活動でも日々体感しています。また、現在行っている各地での講演活動はこの 5 年間でのべ 290 箇所になります（うち今年は 70 数か所）各地方での地元の方たち、講演の主催者の方々などから聞く各地での気候変動による変化、災害、農業・漁業の衰退等の様子などから、地球は「待ったなし！」の状況であると日々感じています。

しかし、海外に目を向けてみると、気候変動による変化などはどこでも顕著で深刻な状況なのですが、目を凝らしてみると、明らかに気候危機に立ち向かうために効果的な選択をしている国もあります。今年、機会あるごとに報告をしているニュージーランドはその象徴的な例で、日本と地理的条件が似ている国でありながら素晴らしい海洋環境を維持し、食料自給率もエネルギー対策も非常に好調です。もちろん、EU 諸国においても希望とヒントに溢れた国々は少なくありません。

（私たちの実践）

それらの国々に共通していることがあり、それは市民活動（NGO）と各自治体、各分野における科学者などとの協力が、政府の気候変動に対する方針や政策に大きく寄与しているという事実なのです。

「気候危機は人の手で止められる！」という課題に対して残念ながら今の日本で希望を見出すことは大変困難になっているといわざるを得ません。しかし、そのような状況であって NPO 気候危機対策ネットワークの活動、会員の皆さん個々の活動においては実に特出した活躍ぶりで、着実に気候危機に立ち向かう効果的な行動を進めていると確信しています。

しかも、小学 4 年生から 70 歳代までの各世代にわたる活動です。

これらは今年度内で 3 回発行したカラーリーフレット（父島往復航海報告書を含む）にて報告しておりますので、ここでは省略いたしますが、ちなみに各活動のメディアによる取材記事等の掲載は、今年度新聞社計 6 社、タウンニュース類 2 誌、記事数のべ 27 記事にもなります（把握している範囲で）

皆さまのご支援のもと 5 回目の総会を迎えられます、ありがとうございました。

NPO 気候危機対策ネットワーク代表 武本匡弘

総会への参加または不参加に関しまして

参加の方は別紙記念講演チラシの QR 等でお申し込みください

不参加の方は総会での各議案などへの承認が必要ですので

右の QR からお手続きをお願いします

